

松浦市 個別施設計画 (道路トンネル)

【松浦市 道路トンネル長寿命化修繕計画】

令和8年1月

松浦市 建設課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

松浦市で長寿命化修繕計画の対象となるトンネルは全2本です。このうち、1本が架設年次不明、残り1本は現在、供用年数30年以上となっており、近い将来、維持・修繕または更新事業が、集中して発生すると思われます。高齢化が進む管理トンネルに対して、従来の事後保全型の維持管理を継続した場合、維持管理コストが増加し、厳しい予算制約の中で安全性・信頼性の確保のための適切な維持管理を続けることが困難となる恐れがあります。

2) 目的

今後、高齢化するトンネルの維持・修繕費用の増大に対応するため、従来の対症療法的な修繕及び更新から予防的な修繕および長寿命化修繕計画に基づく更新へと円滑な政策転換を図るとともに、トンネルの長寿命化並びにトンネルの修繕・更新に係わる費用の縮減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することを目的とします。

2. 長寿命化修繕計画の対象施設（対象トンネル）

		合計
全管理トンネル数		2
うち計画の対象トンネル数		2
	うちこれまでの計画策定トンネル数	2
	うちR4年度計画策定トンネル数	2
長寿命化修繕計画の対象：トンネル（全2橋）		

3. 計画期間

5年に1回の定期点検サイクルを踏まえ、点検間隔が明らかとなるよう計画期間を令和13年度までの10年間で設定しています。なお、点検結果を踏まえて、適宜、計画は更新するものとします。

4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、長崎県道路トンネル点検マニュアル（令和2年3月）に基づきトンネルの損傷を早期に発見するとともに、変状ごとに診断しトンネルの健全度を診断・把握します。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

トンネルを良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、通常点検（道路パトロール）を実施するとともに、清掃や土砂詰まりの除去等、比較的に対応が容易なものについては、日常の維持作業により措置します。

5. 対象トンネルの長寿命化及び修繕・更新に係る費用縮減に関する基本的な方針

健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針とともに、予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕に係わる事業費の大規模化を回避し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

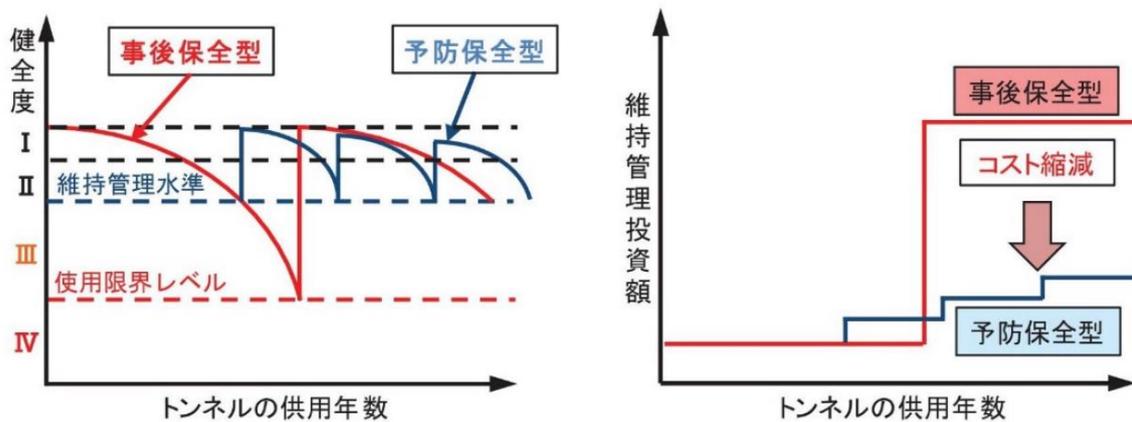
8. 各トンネルにおける補修計画の策定（方針）

1) 老朽化対策における基本方針

5年ごとに実施するトンネル点検・診断結果とライフサイクルコストを踏まえ、立地適正化計画に基づく優先順位の高いトンネルから必要な対策を行います。対策が先送りとなるトンネルは、日常の道路パトロールにより監視し、早期発見と迅速な対応に努めます。

- ① 定期的な補修・補強対策を行うことにより、維持管理水準Ⅱ以下を確保します。
- ② 従来型の事後保全型は、トンネルが「使用限界レベル」まで劣化してから補修をするという考え方で、今後大規模な補修対策が集中し、多額の予算が必要となることで、十分な維持管理ができなくなる恐れがあります。
- ③ 事後保全型に対して予防保全型は損傷が比較的小規模なうちに対策を行い、道路網の安全性の確保とライフサイクルコストの縮減を実現することが可能となります。
- ④ 5年に一回の頻度で近接目視による法定点検を実施した結果に基づく、各トンネルの対策時期については、原則、判定区分Ⅲ以上と診断された時点で補修計画を立案し、補修費用等の検討を実施します。

道路トンネルにおける予防保全のイメージ図



2) 取り組みの方針（新技術・費用削減）

今後の維持管理・更新費の増加や将来の人口減少が見込まれる中、老朽化が進行する道路施設に対応するため、新技術等の活用を促進するとともに、トンネルの集約化・撤去も視野に入れながら維持管理コストの縮減を図ります。

9. 計画全体の目標

(1) 集約化・撤去における数値目標及びそのコスト縮減効果

今後 10 年間に於いて路線の重要度や迂回路の有無、利用状況や地元の意見等を踏まえ、1 本程度の集約化及び撤去を積極的に検討します。このことより、将来の点検や修繕等にかかる費用約 50 万円のコスト縮減が見込めます。

(2) 新技術等の活用における数値目標及びそのコスト縮減効果

①点検・診断

点検・診断では管理する全てのトンネルで新技術の活用検討を行います。

数値目標としては、今後 10 年間で 1 本程度活用することで、点検にかかる費用約 10 万円のコスト縮減を目指します。

②補修等工事

補修等工事については、今後行う全てのトンネルで新材料や新工法の活用検討を行います。

数値目標としては、今後 10 年間で 1 本程度のトンネルで新材料や新工法等を活用し、約 10 万円のコスト縮減を目指します。